

JAなんぼろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

## 消費者へ新鮮な野菜を安価販売

10月15日（土）、エーコープなんぼろ店駐車場特設会場にて蔬菜園芸組合主催の収穫感謝祭が開催されました。

蔬菜園芸組合では、野菜が1つ50円、ニンニクが1袋100円、玉ねぎ5キロ詰めが300円で販売され、購入された方々からは、「こんなに安く新鮮な野菜が買えるのはうれしい」と喜びの声が聞こえました。同会場では、JAなんぼろ青年部による米の販売も行われ、JAなんぼろLINE公式アカウントを活用したイベント「88（おこめ）イイネチャレンジ」を達成して300円引きの1000円での販売となり、100袋用意した新米ピュアライズななつぼしが、販売開始後約10分で完売の



大盛況に終わりました。

さらに、JA総務課では収穫感謝祭会場にて、LINE友だち追加ブースを設置し、JAなんぼろLINE公式アカウントを友達追加していただいた方に、キャベツキムチがプレゼントされました。JAなんぼろLINE公式アカウントでは、随時登録者へお得な情報を発信していきますので、ぜひ友達追加してみてくださいはいかがでしょうか。

収穫感謝祭開催時には、入口での検温・手指の消毒・ソーシャルディスタンスの確保等、新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施しました。今後も感染症対策を万全に行い来場されるお客様が安心出来るイベントを開催していきます。

JAなんぼろLINE公式アカウント



## 令和4年産野菜収穫フェスティバル

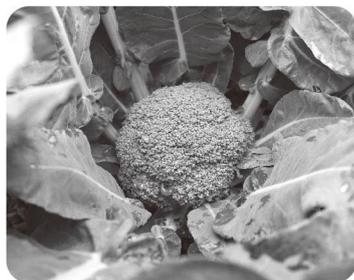
10月中旬、町内では野菜の収穫が終盤に差し掛り、集出荷センターには多種多様な野菜が集まっていました。

また、野菜の作付けされている圃場では、元気に大きく育ったキャベツやブロッコリーを見つめました。

野菜の収穫は、11月中旬頃にはほとんど終わる見込みです。

本年も昨年に引き続き、雨の少ない時期があり畑の水不足に悩まされた組合員も多くいましたが、無事に終盤の作型を収穫する季節を迎え安心した表情も見受けられました。

今年度の農作業もあと少し、暗くなるのも早くなりましたので、作業事故には十分気を付けましょう。



## 南幌町長がライスターミナルを視察

9月30日（金）、南幌町の大崎貞二町長は、ライスターミナル及び長ねぎ選別施設を視察しました。ライスターミナルでは、JAなんぼろ林組合長より今年度の水稻の生育や品質について説明を受け、その後施設内に併設する長ねぎ選別施設を視察し、当町ブランドである「ねぎしゃん」のマークが記載された出荷前の品物を確認しました。

林組合長から「米の品質はおおむね良好で収量も平年作以上となる」と説明があり、大崎町長は「農家が1年間苦勞して栽培した米が、無事に収穫され大変うれしい」と話されました。



## 小学生が稲刈りを体験

10月6日（木）、織田さん（鶴城）の学習田 水稻圃場にて、南幌小学校の5年生による「南幌町の農業を学ぶ総合学習」の一環として、稲刈り体験が行われました。稲刈り体験では、「稲の刈取り」「刈った稲を束ねる」「はさがけ」の作業を2人1組で行いました。始めは、普段手にしない鎌を使った作業に緊張した様子でしたが、次第に鎌の使い方も手慣れ、稲刈り体験終盤にはほとんどの生徒が手際よく作業を進めて

いました。日々給食や食卓で口にしているお米はどの様に収穫されているのか、また、昔の人はどのほど苦勞して収穫していたのかを学ぶことができ、とても良い体験となりました。体験後、小学生からは「田植えから稲刈りまで体験して農家さんの苦勞を知ったので、これからは給食のご飯は残さず食べます。」と感想が述べられました。

刈り取られた稲は、脱穀・精米を行ったのちに小学校に贈呈されます。



## ういずOneセミナーに出演

10月12日(水)、花・野菜技術センター及びホクレン農業協同組合連合会が第2回ういずOneセミナーを開催し、当町で水稻育苗ハウスにて育苗後にういずOneを活用しピーマンを作付けする垂水隆志さん(晩翠西)が、JA会議室からWEBにて取組を発表しました。

本セミナーでは、ピーマンの他にキュウリとトマトの事例についても発表され、全てのプログラムが終了してから、30分の質疑応答が行われた。

「停電時の対応はどのように考えているのか。」  
「ういずOneを設置していた場所で水稻育苗する際、苗の生育に差が生じないのか。」等様々な質問が出ましたが、垂水さんは一つ一つ丁寧に回答し、セミナーに参加した方々にしっかりと南幌町でのういずOneについて伝えていました。



### ういずOneとは

ハウスの土壌から隔離した状態で栽培を行い施肥管理はすべて液肥で行う栽培システムのこと



発行者  
JAなんぼろ青年部  
編集責任者 石川 卓也

## くるるの杜で収穫・調理体験に参加

10月1日(土)、ホクレンくるるの杜で収穫から調理までの体験として「キャベツを収穫してホットドッグで食べよう」が行われ、盟友3名が参加しました。

当日は、6組の家族が体験に参加し、くるるの杜の畑に作付けされた大きなキャベツを収穫し、そのキャベツを使用してホットドッグを作りました。

調理後には、子供たちからの質問コーナーもあり「キャベツはどんな病気になるの。」「キャベツの葉っぱは何枚あるの。」など色々な質問に盟友が答え、南幌町の農業について子供たちに伝えることができました。

青年部では、今後も町内外消費者に南幌町農業の魅力を伝えていきたいと思えます。



## グリーンコミュニケーション

**免税軽油作業日報の提出は12月15日まで!**

11月末で免税軽油の使用期間が終了します。

免税軽油の申請・使用は法令に基づく罰則規定がありますので以下の点にご注意の上、作成・提出をお願い致します。

- ・作業日報は毎年更新していますので、古い日報を使わないようお願い致します。
- ・エクセルで提出の方は、データ内のひな形を参考に記入して下さい。
- ・修正箇所が多い場合は、再提出やその場でお時間を頂く場合もございます。

※日報入力に関してわからないことがあればいつでもグリーンセンターまでお問い合わせ下さい。



# 長船技師による営農情報！



## ホウ素欠乏・過剰を防ぐための注意点は？

今月は、ホウ素欠乏や過剰症を説明したいと思います。ホウ素は土壌中の適正濃度範囲が狭い為欠乏や過剰症が発生しやすい元素です。ホウ素欠乏は砂質土壌や泥炭土で、作物種ではアブラナ科野菜やてんさいなどで起きやすく、逆に豆類は過剰に弱い事に注意が必要です。

### 1 作物におけるホウ素の役割と欠乏症

ホウ素は植物体の中で、古い組織から新しい組織に移動しがたい為、欠乏の特徴が主に生長点に現れ、新葉や根毛の成長が停止あるいは、抑制されます。また、茎や果実組織での亀裂やコルク化が見られる場合があります。

### 2 ホウ素欠乏症の発生要因

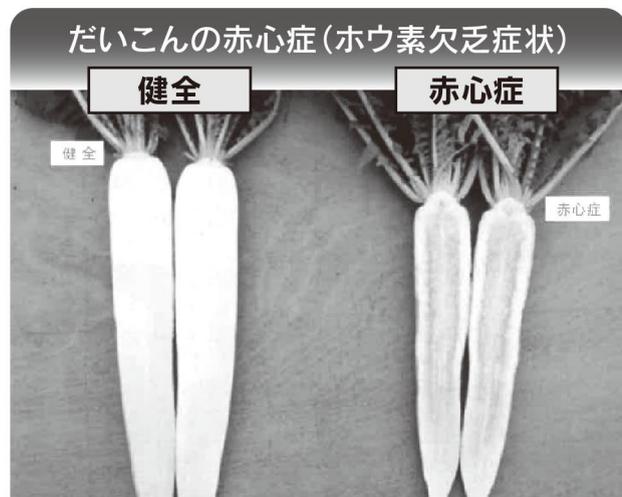
- (1) ホウ素が流亡しやすい砂質土壌や含有量が少ない泥炭土壌では注意が必要です。
- (2) 高pH土壌で欠乏症が発生しやすく、pHを適正に維持することが重要です。
- (3) ホウ素欠乏がしやすい作物には、キャベツやダイコン、ブロッコリーなどのアブラナ科、セルリー、トマト、てんさいなどがあります。

### 3 対策と注意点

- (1) ホウ素の施肥が必要なアブラナ科野菜やてんさいでは、必要な量を作付ごとに施肥します。
- (2) 小豆などの豆類はホウ素過剰に対する耐性が弱いので、ホウ素の入っている肥料を誤って使用しないように気をつけます。

表1 畑土壌におけるホウ素の土壌診断基準(北海道施肥ガイド2020)

診断基準		注意事項 (作物特定基準)
診断項目	基準値	
熱水可溶性ホウ素	0.5~1.0ppm	・高pH、砂質土壌、泥炭土では欠乏しやすい。 ・だいこんは0.5~1.0ppmでは赤心症発生の恐れがあるのでだいこんの基準値は1.0~2.0ppmです。



参考資料:北海道施肥ガイド2020、土づくりQ&A[総括編]  
:畑作における微量要素、野菜の要素欠乏・過剰症

# 業務時間の変更について

営業時間が下記のとおり変更となりますので、ご案内いたします。

**期間：11月1日～3月31日**

		平日	土曜・日曜
		営業時間	営業時間
本部事務所		9:00～17:00	休業
グリーンセンター		9:00～17:00	休業
野菜関連施設		9:00～17:00	9:00～17:00 ※11月は野菜受入のため土日営業 ※12月以降は野菜受入のため日曜日のみ営業
推進本部		8:30～17:00	休業
JAバンク 共 済	(貯金窓口)	9:00～15:00	休業
	(融資窓口)	9:00～15:00	
	(共済窓口)	9:00～17:00	
	※11:30～12:30の間、全ての窓口業務を休止		
A T M		9:00～18:00	9:00～17:00 ※エーコープATM土曜日営業 (本部事務所ATM土日祝休業)
本部給油所		7:30～19:00	7:30～19:00
エーコープなんぽろ店		9:30～20:00	9:30～20:00

# 農協法公布記念日にあたっての 組合員・役職員へのメッセージ



北海道農業協同組合中央会  
代表理事会長 小野寺 俊幸

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で75年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、今日に至っております。

一昨年より、新型コロナウイルスという今まで経験したことのないウイルスが世界的に感染拡大し、社会・経済にも大きな影響を与えておりますが、経済活動は徐々に日常を取り戻しつつあります。

しかしながら、農業分野においては長引くコロナ禍の影響による農畜産物の消費の低迷、飼料・肥料等生産資材の高騰により農業・JAを取り巻く環境は厳しさを増しております。

思い返すと世界規模での新型コロナウイルス感染拡大に伴い、マスクの需要が急激に増加しましたが、その大部分を海外からの輸入に頼っていたことから、国内は深刻なマスク不足に陥ってしまいました。

コロナ禍において、いくつかの国が食料の輸出を制限しました。幸いにも、それらの国から日本は食料を多く輸入していなかったため、今のところ大きな影響には至っておりませんが、何らかの問題が発生したとき、私たちの食料はどうなってしまうのか。私たちにとって大きな教訓となりました。

このことから、国民が必要とし消費する食料はできるだけその国で生産する「国消国産」という考え方は、消費者に知っていただきたい大切なテーマであり、1945年に国連食糧農業機関（FAO）が発足した日、さらに1981年に国連が「世界食料デー」に定めた日である10月16日を、「国消国産の日」として制定し、令和3年に日本記念日協会に登録しました。

今こそ、この国消国産の周知、さらにはJA北海道大会で確認された550万人サポーターづくりを推進するべく、JAグループ北海道が一体となって「アグリアクション北海道」と題した統一した取り組みをしっかりと実践することが必要となります。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

# 理事会報告

## 10月21日

10月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

### 【監査講評】

1、第2四半期末 自治監査

### 【議案】

1、令和4年度8月期ディスクロージャー（半期開示）の作成について

2、規程等の改正について

3、固定資産の除却について

### 【報告事項】

1、第6回 営農振興組合長会議の開催結果について

2、農産物の生育状況について

3、令和4年度 営農賦課金の確認および徴収について

4、令和5年度 作付意向面積の集計について

5、令和3年度 肥料利用割戻奨励金の精算について

6、令和3年度 系統米（酒造好適米）の追加概算金支払いについて

7、令和4年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設の小麦精算について

8、令和4年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設の水稲操業状況について

9、令和3年度 共同計算の精算結果について

10、9月末 農産物の保管状況について

11、9月末 蔬菜販売状況について

12、9月期 J A ローン の貸付について

13、財務諸表等監査（期中）の結果について

14、内部監査の実施報告について

15、金利設定会議の開催報告について

16、リスク情報について

17、令和5年度 職員採用の内定について

18、9月末 財務状況について

19、9月末 財務状況について

## ～表紙の紹介～

◎今月号は、10月15日に開催された収穫感謝祭の様子を表紙にしました。



## 南幌町 フォトコーナー



▲くるるの社ではキャベツの他にフロコリーやニンジンも収穫しました。



▲10月14日(金)に当JAバンク前で特殊詐欺被害防止の街頭啓発を実施しました。

## 編集後記

日中と夜の寒暖差が大きく風邪をひいてしましそうな日が多くなってきました。

皆さんの行っている風邪対策は何ですか。

吉田は、冬でも家では半袖短パンで過ごすことです。

くみあいだより担当の吉田は、大きなズッキーニを収穫しました。大きく育てすぎました。



## 私達のJA

令和4年9月末日現在

組合員 (前年同期比)	2,697名 ▲20名
正組合員 (前年同期比)	446名 ▲3名
准組合員 (前年同期比)	2,251名 ▲17名
正組合員戸数 (前年同期比)	280戸 ▲1戸

発行 JAなんぼろ 〒069-0293 空知郡南幌町栄町1丁目4番7号

TEL 011-378-2221(代表)、011-378-2274(直通) FAX 011-378-0846 発行日 令和4年11月1日

ホームページ <http://www.ja-nanporo.or.jp> メールアドレス [koho@ja-nanporo.or.jp](mailto:koho@ja-nanporo.or.jp)

企画・編集 営農部農業振興課 印刷 ㈱トリムシステム